

ろうそく屋彦兵衛

平成になって蘇る江戸時代相馬郡布施の俳人嘯花。

雪月庵嘯花（せつげつあん しょうか）は宝暦 11 年(1761)、下総国相馬郡布施村土谷坪（現我孫子市布施）の飯田勘平家次男として生まれ、同坪の二代目中尾平左衛門（酒造家）の養子となり、分家して彦兵衛と名乗りました。

俳句を常陸国河内郡若柴宿、風篋庵野口乱竿に習いましたが師の死後、江戸の松庵麦秋より俳諧秘伝を享和三年(1803)に授けられました。

同年、小林一茶の『享和句帖』11月13日条に、「嘯花、布施・ろうそく屋彦兵衛」と記載されています。嘯花は、柏・我孫子市域に名の残された数少ない俳人の一人です。

晩年、彦兵衛こと中尾彦兵衛は、俳名を嘯花といい、書齋であった庵名により雪月庵嘯花と、言われるようになりました。

雪月庵嘯花は「雪月庵」にて子供に読み書きを教えたりしていましたが、農民でありろうそく屋という商いも営んでいたようです、更に「講」の世話人等々と土谷坪に貢献していたそうです。嘉永二年(1849)亡、享年八十九。



庚申の夜を月花に明けにけり 円性寺句碑

彦兵衛の屋敷があった場所。中央の赤い点

柏市布施の土谷津に中尾富久造さんというお宅（目印は円性寺）があります。

この家の祖先が八兵衛さんで、布施村で初めて酒造りをした家だったそうです。

昔は酒蔵もあったようですが、今は酒造り関係の施設はないそうです。

八兵衛は、貞享元年(1684)現在の神戸市北区山田町の生まれで、宝暦二年(1752)に 69 歳で亡くなっています。

中尾家の三代目になる八兵衛は、布施弁天を初めて亀甲山に祀った布施村名主の後藤善右衛門家からの養子でした。1741 年という五十代で起業したのでしょうか。

そして、忽然とこの八兵衛の名前が消えてしまうのですが、それは、富勢村誌によれば、八兵衛と同じ名前の代官がいたので、畏れ多いので八兵衛を改名して平左衛門と名乗るようになったと言われています。その時期は 1752 年前後と言われ、以降中尾家は平左衛門と代々名乗るようになりました。

三代目平左衛門(1745～1809)の時に、酒の銘柄「谷風」が、相撲関係者からのクレームにより、売れ行きに影響し、享和三年(1803)に酒造米高百石分の酒造株を現我孫子市中

里の中野家に譲渡して、酒造りをやめてしまいました。

中尾平左衛門家の反対側に中尾嘯花の家(ろうそく屋彦兵衛)があったそうです。

土谷津の円性寺の門を背にすると正面の道は 50m 程先で右にカーブしていますが、車がやっと通れるような直進路があります、この路の右側は柏市で左側は我孫子市です、この左側に中尾彦兵衛家の母屋右側に書院があったそうですが今はありません。

三代目中尾平左衛門家に飯田家から養子に入り、酒造りの経理等の仕事をしていた平弥が分家して彦兵衛と名乗りました、小林一茶と交流があった俳人、ろうそく屋彦兵衛なのです、だが、蠟燭を売っていたのかは不明であり、彦兵衛は土谷坪(土谷津)に於いては、子供達には筆子役として庵を解放し、人々へは土谷坪の総代としての役務を遂行し果たし慕われていたそうです。

江戸後期下総布施村中尾嘯花句集 「いほ里のちり

いほりのちりを漢字で書くと「庵の塵」です。嘯花の句の一部を紹介します。

初東風や大土器のうへを婦く [読み] はつたこや おおかわらげの うえをふく

初東風：新年初めて東方から吹く春風

いく度も 掃た(はいた)師走の あくたかな (あくた、塵、自作の俳句を自ら言う)

ほちゃほちゃと 揚げバ高し 藤の花 (ほちゃほちゃ、ふっくらと可愛らしい)

御百度も ひざくり毛也 競馬(くらべうま) 我孫子の子の権現奉納の句

「ひざくり毛」は歩く旅、競馬は京都賀茂別雷神社で端午の節句に行われた神事。

庚申の 夜を月花に 明けにけり 庚申待ちは徹夜で行われる習俗(しゅうぞく)。

円性寺の庚申塔に、文化元年六月土谷坪講中三十四人と刻まれている。

柳すずし 千とせの底の 河名艸 布施弁天壺千年記念の句？。

(河名艸：河名草：古来より尊ばれる草木、沙羅や榊など。)

木々の間に 紅龍の眼や 冬の月 最勝閣。 布施弁天の楼門の扁額。

筑波根や 尾花の色を 空に持

筑波根：紫峰とも呼ばれ、一面すすきの向こうに筑波山が見える。

菊添へて 泡もりくれた 八か哉 八か：八日。爛酒を九月九日の重陽の節句に

飲むと病気にならないとする習慣、菊の酒。

鳴の背に 朝日かかりぬ さくら川 土浦の桜川は、妻「たへ」か「えひ」さん

戒名「裕壽妙榮信女」の実家近くでした。

『いほ里のちり』は百姓である嘯花自身が残した畢生(ひっせい)の句集であります。

今回、当会歴史部会の有志が第 1 部でこれを解説し、素人なりに注を付け、第 2 部に「俳人中尾嘯花の研究—嘯花をめぐる人々—」として嘯花の解説を行っております。

「いほ里のちり」は書店では販売致しておりません。購入ご希望の場合は、

我孫子市史研究センターホームページ、又は熊倉迄 029-773-3906

2007/03/21 相馬霊場巡る会 kumaken 記

2007年集合写真相馬データ内に残りのファイル有り参照のこと